

附

藥水に浸すべし常用綿花は創口なくして單に炎症疼痛を發する部を被包する等に用ふ

○綳帶用綿紗 綿糸を以て織りたる網眼粗布なり輕軟にして水液を吸收するの性著大なるを以て創處を被包するに適す而して創處を被ふには必ず消毒藥を以て製したる者即ち石炭酸カーゼ或は昇汞カーゼに非ざれば用ふべからず

但綿紗を石炭酸水五十倍若くは昇汞水千倍にて煮常に之を貯へ用ゐるに臨み絞りに使ふべし

○木綿及び洋布 白色清潔粗密中等にして柔軟なるを其に用ふ

○副木 骨傷部を支持固定する等に用ふ木材鍍葉厚紙の如き強固の物質を以て製するものにして通例身體各部に適する諸種の定式副木を備ふ然れども他の物品を假用して副木となすことあり

○絆瘡膏 創傷部を防護し其の上 ○格魯兒石灰 用ゐるに臨み三十分○石灰 乳石炭一分に水四分を加へ攪拌して得る所の乳白

實 踐 遊 戲 全 書

附 錄 畢

○石炭酸水 五十倍の石炭酸水は負傷の部を洗滌するに用ひ二十倍の者は吐瀉物其他傳染の恐ある物の消毒用に供す

但結晶石炭酸は温湯を以て溶解し得べし

○昇汞水 千倍の昇汞水は其の價廉にして防腐消毒の効は遙に石炭酸水に勝るも劇毒の藥品なれば其の取扱に注意すべし

○毛布、枕、針、毛拔、鏡、オレ、フ、油、食、鹽、明、礬、胡、麻、油、葛、粉、醋、藥、ア、ン、モ、ニ、ヤ、福、砂、精、サ、ル、チ、ル、酸、砂、糖、醋、酒、類、等

實 踐 遊 戲 全 書

明治卅二年二月十一日印刷
明治卅二年二月廿四日發行



發行者 松 邑 孫 吉

東京市京橋區弓町拾貳番地

印刷者 多 田 榮 次

東京市神田區小川町壹番地

印刷所 愛 善 社

東京市神田區小川町壹番地

發 兌 元

東京市京橋區弓町拾貳番地

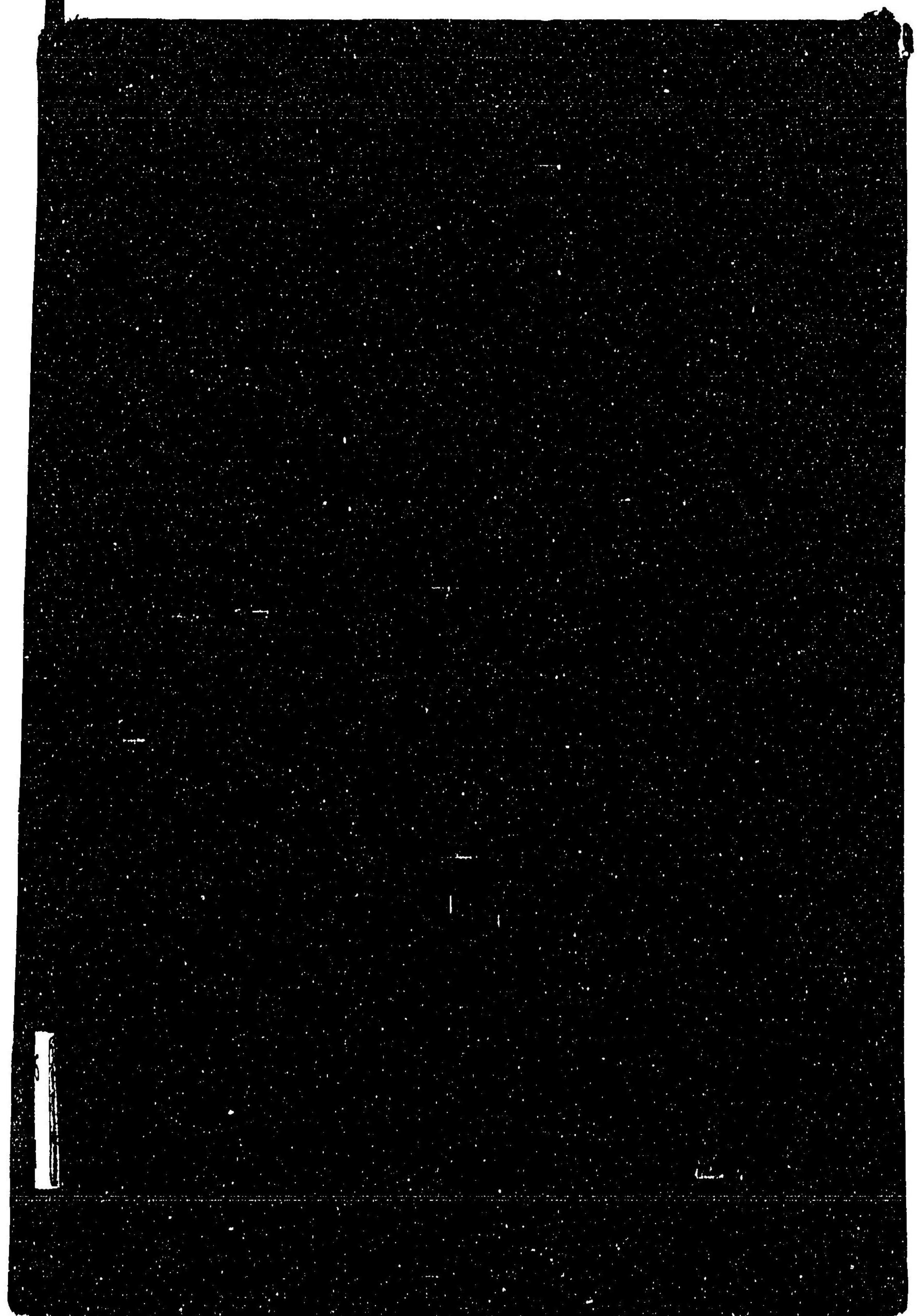
松 邑 三 松 堂

關 西 大 賣 捌

大坂備後町

吉 岡 平 助

296
31



276

31

075280-000-3

276-31

実践遊戯全書

体育研究会／編

M32

CEM-0193



